

DCB 施行患者と LASER+DCB 施行患者の予後について

<sup>1</sup>千葉西総合病院、<sup>2</sup>千葉西総合病院

大槻 直夢<sup>1</sup>、渥美 真紀<sup>1</sup>、畠山 優華<sup>1</sup>、富田 誠士<sup>1</sup>、金澤 佑樹<sup>1</sup>、河中 平太郎<sup>1</sup>、二階堂 由美<sup>1</sup>、渡部 惇<sup>1</sup>、金子 健二<sup>1</sup>、林 貞治<sup>1</sup>、倉持 雄彦<sup>2</sup>、三角 和雄<sup>2</sup>

【はじめに】2014年より、Drug Coating Balloon（以下DCB）が使用され始め、Stent 再狭窄の治療において注目されている。また当院では、STENT 再狭窄の治療にExcimer laser（以下Laser）を積極的に使用している。

【目的】DCB 施行患者と Laser+DCB 施行患者の治療予後について比較、検討した。

【対象】2014. 4. 1～2015. 8. 13 に DCB のみまたは、Laser+DCB を施行した患者 189 名（男性 150 名、女性 39 名、平均年齢 69.4 ± 9.7 歳）を対象に、DCB のみ施行（以下 DCB 群）と Laser と DCB を併用した（以下 Laser+DCB 群）に分け年齢、性別、Risk factor、TLR、DCB 径、DCB 長、について比較した。

【結果】年齢、性別及び、Risk factor に有意差は見受けられなかった。TLR は DCB 群が 26.2%、Laser+DCB 群で 29.9%であった。DCB 群 : Laser+DCB 群の比較にて DCB 径では、3.0mm : 3.1mm、TLR 群では、3.0mm : 3.2mm、DCB 長では、20.8mm : 18.7mm、TLR 群では、23.2mm : 22.9mm と DCB 長は長くなる傾向にあった。

【考察】DCB 群と Laser+DCB 群で TLR に有意差がなかったのは、Laser 施行により、プラークの蒸散効果を十分に得られていることで、DCB 薬剤の浸潤を高め DCB 群と同様の治療効果が得られたのではないかと考える。TLR となった両群で DCB 平均長が長くなっており、POBA+STENT 時で TLR 要因の一つに病変長の長さが挙げられ、同様に DCB を用いた PCI でも TLR の要因となる可能性が考えられる。

【結語】DCB や Laser+DCB を併用しても TLR は高い傾向にあった。今後は POBA のみとの比較を行い、DCB の有効性を比較、検討する必要性がある。